

鑑賞の手引き

鑑賞カード1 月岡芳年（大藪） 「風俗三十二相 けむさう 享和年間 内室之風俗」

鑑賞カード2 左から「かわゆらしそう 明治 内室之風俗」「すずしさう 明治五六年以来 芸妓の風俗」
「暗さう 明治年間妻君の風俗」

いずれも1888年（明治21）、多色木版、横浜美術館蔵（加藤栄一氏寄贈）

■作家について

月岡芳年（1839～92）は、幕末から明治にかけて活躍し激しい個性に満ちた作品を次々と生み出した浮世絵師です。歌川国芳の下で浮世絵を学んだ芳年は、武者絵や美人画など多彩なジャンルで活躍しました。迫力あるダイナミックな構図が特徴です。

■鑑賞カード1-1の作品《風俗三十二相 けむさう 享和年間 内室之風俗》について

「風俗三十二相」は江戸から明治にかけてのさまざまな身分や職業の女性たちを描いた、全32枚からなる美人画のシリーズ。鑑賞カード1-1の作品は、享和年間（1801～1803）の女性を描いたもの。「内室」とは、上流階級の家の奥様のことです。蚊遣り（葉や木などを火にくべて、燻した煙で蚊を追い払うもの）に火付けたところでしょうか。目を細めて煙そうにしている姿が表現されています。

■浮世絵版画について

浮世絵版画は、江戸時代に確立した多色木版画です。庶民の風俗や歌舞伎役者、名所の風景などが描かれました。原画を描く「絵師」、版木を彫る「彫師」、紙に摺る「摺師」という専門の職人たちの分業で制作されました。月岡芳年は、「絵師」です。何年も修業した彫師や摺師の高度な技術によって、絵に描かれた繊細な線や細かい模様、微妙に変化する色彩などが版画として再現されています。

■鑑賞のポイント

鑑賞カード（左）

◆表情やポーズをまねしてみよう。

立ち上る煙に驚き、体を反らして煙たそうに目を細める女性。みんなで顔や体を動かしてみることで、その人物の考えていることやその場の情景をぐっと想像しやすくなるはずです。

◆けむりの表現に注目！ ◆女の人の髪型や着物の柄に注目！

大きな曲線を描いて画面中央を斜めに上ってゆく煙はとても印象的。煙が透けて向こう側が見えるように、着物や団扇の色の一部が淡くなっています。背景にはぼかし摺りも。このような透明感のある表現は、卓越した技術を持つ摺師の技が活かされています。また、一本ずつ細かく表現された髪が生え際や、女性の体の形に沿って大きさを変える細かい着物の模様からは、一流の彫師の仕事が垣間見えます。

鑑賞カード（右）

鑑賞カード1-1を発展させて、風俗三十二相の他の作品とも比較してみましょう。かわゆらしそう、涼しそう、暗そうなど、女性たちの内面や感情が豊かに表現されています。各作品を見比べてみると、その表情の違いが際立って見えてきます。